

結び

郭 南燕

日本の古都—京都—西北の閑静な界隈に、国際日本文化研究センターは位置している。ここは、世界の日本研究の歴史と現状の情報を交換する場である。

自費・公費を問わず、世界各国から研究者がここに集まってきて、日本、東アジア、世界を視野に入れて、豊富な日本研究の蔵書をもつ図書館（蔵書数は約 50 万冊、雑誌は約 8,100 タイトル、映像・音響資料は約 18 万点、マイクロ資料は約 3,300 タイトル、電子資料は約 300 タイトル）を利用している。ここを「日本研究の楽園」と思っている研究者も少なくないようだ。

皆さんが各国、各地域、各機関、各分野の日本研究の情報を提供してくれたため、この冊子の出版が可能となっている。この冊子は日文研から、さらに各国の日本研究機関に届けられ、多くの研究者と情報を共有し、日本研究のネットワークが有形無形につながるようになる。この報告書を通して、世界の日本研究の成果、さらに問題点を知ることができ、日本研究を発展させるために何をどのようにすればよいかを考える一つのきっかけが与えられることを期待する。

2014 年のノーベル物理学賞が青色 LED を開発した日本出身の研究者三名に与えられたこと、2020 年に東京オリンピックが開催されることは、世界の視線を一気に日本に集めている。日本の姿をいかに客観的・多角的に捉え、世界に発信するかは、日本研究のこれからの課題である。

皆さんの報告原稿を積極的に収集してくださった元日文研研究協力課の西山明美氏にまず感謝したい。Raquel Hill 博士と Patricia Fister 教授は英語の校正に貴重な時間を割いてくださった。表紙のデザインと編集を担当してくださった出版編集室の白石恵理氏の尽力は、本冊子の出版にとって不可欠なもので、深甚なる謝意を申し上げる。